

裾野・南小で「いのちの授業」



絵本の読み聞かせを通して命の大切さについて考える児童—裾野市立南小

うつ病への理解深めて

県は25日、裾野市立南小で絵本の読み聞かせを通じて自殺予防やうつ病について考える「いのちの授業」を開いた。画家の夢ら丘（むらおか）実果さんと作家の吉沢誠さんが同校を訪れ、自ら制作した絵本「カーくんと森のなかまたち」を全校児童241人に読み聞かせた。

画家の夢ら丘さんの絵本読み聞かせ

絵本は主人公のガラスのカーくんが、他の鳥たちの良いところばかりが気になって自信を失い、自分の存在意義に疑問を持ち「自分なんていないほうがいい」と悩むストーリー。最後は、自分自身が気が付かなかった長所を仲間を教えてもらい、元気を取り戻す様子を插した。

吉沢さんは「風邪をひいたら休むように、うつ病にも休息と治療が必要」と話し、夢ら丘さんは「元気がない友達がいたらまず声を掛けて。一人で悩まずに誰かに話すことが大切」と呼び掛けた。

児童は絵本の読み聞かせを通して、うつ病を理解しながら命の大切さについて考えた。